

久米島布教所 報恩講

親鸞聖人の命日をご縁にお聴聞
牛乳パックで
年賀はがきづくりも楽しむ

11月17日(日) 久米島布教所
にて宗祖親鸞聖人報恩講法要を修
行しました。報恩講とは、親鸞聖
人(浄土真宗を開かれた方)の命
日をご縁とし、阿弥陀さまの教え
を聴聞させていただく法要です。

お勤めの後、大人も子どもも集
まって皆で紙すきをし、年賀はが
きづくりを行いました。材料の牛
乳パックは参加者ご家族に収集を
協力いただきました。事前に水に
浸しておいた牛乳パックの表裏層



をはがし、小さくちぎってミキサー
で攪拌。子どもはミキサー選んで
揉めながらも交代して行いました。
攪拌した紙を容器に移し、すき型
を使用してはがきにします。はじ
めは失敗しても慣れてくると5枚、
10枚と作れるようになりました。
はがきはタオルに包んで持ち帰り、
家で干してもらいました。乾燥す
れば出来上がり。皆、年賀状に使
うのを楽しみにしていました。

来年の11月にもまた、報恩講と
年賀はがきづ
くりを行う予
定です。
皆さんも手
作りはがきで
年賀状を送っ
てみませんか。

会経 彼岸 永代 秋の法要

沖縄別院では9月22日(日)に
秋季彼岸会・秋の永代経 法要をお
勤めました。

お彼岸の法要・永代経法要と
は、ご先祖の方々をご縁に仏さま
に手を合わせさせていただく場であ
り、私まで伝わってきたご縁に感
謝し、このご縁が永代にわたって
続いていくようにとの思いを新た
にさせていただく法要です。
ご法話で中岡順忍輪番は、
「法要や法事は、手を合わせるだ
けではありません。耳を傾ける場
でもあります。阿弥陀さまは私を



中岡輪番による仏さまのお話に聞き入る
お参りの皆さん

一人にはしませんよ、と南無阿弥
陀仏のお念仏となつてはたらきか
けてくださいます」
と話されました。

沖縄別院では毎年、春秋の彼岸
に合わせて「彼岸会・永代経法要」
を修行しています。
皆さん、ぜひご参拝ください。

う ち な ー

浄土真宗本願寺派
発行 本願寺沖縄別院 (浦添本願寺)
発行人 中 岡 順 忍
〒901-2132
沖縄県浦添市伊祖5-10-1
電 話 (098) 877-3276
ファックス (098) 877-4242
mail ameku2182@yahoo.co.jp

ご挨拶



本願寺沖縄別院輪番
中岡順忍

◎ 二大法要への御礼

本願寺沖縄別院(浦添本願寺)
並びに有縁の皆さまには、別院の
護持発展に各段のご協力を賜って
おりますこと、誠に有難く厚くお
礼申し上げます。
12月(師走)に入り今年もあと
僅かとなりましたがいかがお過ご
してでしょうか。

去る12月1日(日)に、沖縄別
院「親鸞聖人御誕生850年・立
教 開宗800年慶讃法要」並び
に「本願寺沖縄別院設立20周年記
念法要」を修行いたしましたところ、遠近各地から多くのご参拝を
いただき、盛大にお勤めすること
ができました。

◎ 現在の世界情勢

これもひとえに、仏祖の御加護
とご協力ご協賛いただいた皆さま
のお蔭と深く感謝申し上げます。
さて今日、コロナ禍の影響を受
け私たちを取り巻く社会情勢や生
活環境は大きく変化しました。
また地球温暖化による気候変動
により世界各地で災害が発生して
います。
さらに、紛争や戦争により尊
いのが脅かされる地域があり、
経済格差や貧困問題など様々な課
題を抱える国が存在しています。

◎ 親鸞聖人の存在

今から2500年前、釈尊は人
生のありのままの姿を見極めるこ
と(如実知見)によって、老・病・
死の苦悩の原因は無明(煩悩)で
あると見抜き、それを解決する道

◎ 私たちの生き方

を完成されました。
そしておよそ800年前、親鸞
聖人は、私たち人間とは自己中心
的な思い(煩悩)からどうしても
抜け出ることのできない存在であ
ると気づかれ、誰ひとり取り残す
ことなく尊い安心を与えようとは
たらき続けている阿弥陀如来の願
いに出遇われました。そしてその
ことを私たちの生き方としてお示
しくださったのが親鸞聖人です。

私たちは、この尊いみ教えてあ
る阿弥陀如来の智慧と慈悲を深く
受けとめ、次の世代に伝えていく
ことが大切なことだと思います。
そして、世界中の全ての人びと
がお互いに心を通い合わせて生き
ていける社会の実現に向けて邁進
したいと存じます。



慶讃法要

沖縄別院設立20周年記念法要

12月1日（日）本願寺沖縄別院本堂において、
「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」
「本願寺沖縄別院設立20周年記念法要」を修行しました。

この法要は浄土真宗の宗祖親鸞聖人が誕生されて850年、浄土真宗を開かれて800年、そして沖縄別院が設立されて20周年となることを記念し、スローガン「縁を慶び、お念仏とともに」、法要テーマ「伝える、つなぐ、命どう宝（命どう宝）は「命こそ宝」の意味として行われました。

午前の部・午後の部に分け（各部共通）、中岡順忍輪番の挨拶に始まり、記念布教として吉村隆真師（本願寺派布教使・熊本教区託麻組良覚寺住職）にご法話（仏さまのお話）、釋徹宗師（相愛大学学長）に記念講演をしていただきました。

午前・午後の部の間には、沖縄別院では初めての「帰敬式」を実施しました。帰敬式とは、阿彌陀如来・親鸞聖人の御前で浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし、お念仏申す日暮らしを送ることを誓う、とても大切な儀式です。

帰敬式には23名の受式申し込みがあり、本山から御手代（ご門主に代わって執行する人）をお迎えしました。係員が帰敬式の流れを説明し、照明を落として薄暗く厳かな雰囲気の中、帰敬式を執行いただきました。

受式した方は、「厳かに帰敬式を受式し、法名をいただいたことで



浄土真宗門徒としての自覚が芽生えました。南無阿彌陀仏を振りどころとする生活に勤しんでいく「いず」と話されていました。

帰敬式後、慶讃法要の記念行事として募集した「非戦・平和」に関する作文・絵画コンクールの最優秀受賞者表彰を行いました。

作文部門最優秀賞は前山田ジャズ
ミニライトさん、絵画部門最優秀
賞は久場路那さんがそれぞれ受賞



また、来年は沖縄戦終戦80年となることから、追悼法要の修行を予定しています。皆さんのご参拝をお待ちしています。



されました。
二人には中岡輪番から表彰状及び記念品が贈